

令和4年度

事業報告書

(自) 令和4年4月1日

(至) 令和5年3月31日

社会福祉法人 佐賀市社会福祉協議会

目 次

令和4年度事業概要	1 ページ
I. 社会福祉事業拠点区分	2 ページ
1 法人運営事業	
2 地域福祉活動事業	
3 共同募金配分金事業	
4 福祉サービス利用支援事業	
5 生活福祉資金貸付事業	
II. 施設経営事業拠点区分	18 ページ
1 老人福祉センター事業	
2 金立いこいの家事業	
III. 介護保険等事業拠点区分	19 ページ
1 通所介護事業	
IV. 認可外保育施設運営拠点区分	20 ページ
1 松梅保育所運営事業	
V. その他の事業	20 ページ
1 共同募金・歳末たすけあい募金運動への協力	
2 日本赤十字社事業の推進	

令和4年度事業概要

佐賀市社会福祉協議会では、佐賀市と連携して策定した「第4期佐賀市地域福祉計画・地域福祉活動計画」（計画期間：令和3年度～令和7年度）の3つの基本目標である「みんなの主体的な活動を促す地域づくり・人づくり」、「地域で安心安全な暮らしを支える体制づくり」、「福祉サービスにつながる体制・仕組みづくり」の達成を目指して、コロナ禍による制限のある中でもつながりを絶やすことなく地域福祉を進めるためのさまざまな事業に取り組みました。

本会の活動の原点である「地域福祉の推進」については、市内の小学校区すべてに校区（地区）社会福祉協議会の設置を目標にして、地域の各団体等と協議を重ねてきました。設置の意向を示された校区もありましたが、すべての校区への設置という目標には至りませんでした。引き続き校区（地区）社会福祉協議会の設置に向けては協議を重ねていきます。

「重層的支援体制整備事業」については、地域共生社会の実現に向けての歩みを止めることなく、その対象となる人、世帯、地域に出向いて（アウトリーチ支援）を展開してきました。その一環でもある、子育て世代への支援強化のために新たに南部の拠点となる地域子育て支援センター（東与賀保健センター内）の開設準備を進めてきました。

また、「成年後見制度における中核機関」として新たに佐賀市成年後見センターを受託したことで、広く住民に対して権利擁護支援を進めてきました。

本会すべての活動に対し、逃げない支援者をモットーに取り組んできましたが、まだまだ十分とは言えない案件もありました。これからも地域住民の福祉を第一に掲げ、さらに関係機関との連携強化を図り、地域福祉の推進に取り組んでまいります。

I. 社会福祉事業拠点区分 (320,663,247 円)

1 法人運営事業 (133,939,335 円)

(1) 役員会開催状況

- ① 第1回理事会 令和4年6月6日 (出席9名 欠席2名 欠員2名)
 - 第1号議案 定款の一部改正について
 - 第2号議案 佐賀市社会福祉協議会会長、副会長及び常務理事の報酬に関する規程の一部改正について
 - 第3号議案 佐賀市社会福祉協議会役員等の費用弁償に関する規程の一部改正について
 - 第4号議案 令和3年度事業報告並びに資金収支決算について
 - 第5号議案 理事・監事の補充選任候補者の推薦について
 - 第6号議案 評議員の補充選任候補者の推薦について
 - 第7号議案 評議員選任・解任委員の選任について
 - 第8号議案 評議員選任・解任委員会の招集について
 - 第9号議案 苦情解決第三者委員の選任について
 - 第10号議案 令和4年度定時評議員会の開催について
- ② 第2回理事会 令和4年6月23日 (出席10名 欠席3名)
 - 第1号議案 会長の選任について
- ③ 第3回理事会 令和4年9月28日 (出席11名 欠席2名)
 - 第1号議案 令和4年度第1回資金収支補正予算について
- ④ 第4回理事会 令和4年12月19日 (出席12名 欠席1名)
 - 第1号議案 第2回資金収支補正予算について
- ⑤ 第5回理事会 令和5年3月27日 (出席12名 欠席1名)
 - 第1号議案 令和4年度第3回資金収支補正予算について
 - 第2号議案 令和5年度事業計画並びに資金収支予算について

(2) 評議員会開催状況

- ① 定時評議員会 令和4年6月23日 (出席19名 欠席3名 欠員1名)
 - 第1号議案 定款の一部変更について
 - 第2号議案 佐賀市社会福祉協議会会長、副会長及び常務理事の報酬に関する規程の一部改正について
 - 第3号議案 令和3年度事業報告並びに資金収支決算について
 - 第4号議案 役員(理事・監事)の選任について

(3) 評議員選任・解任委員会開催状況

- ① 第1回評議員選任・解任委員会 令和4年6月17日 (出席5名)
 - 第1号議案 評議員の選任について

(4) 監査状況

- ① 令和3年度事業・会計監査 令和4年5月19日

(5) 苦情の受付及び解決状況

苦情解決システム管理要綱に基づき、利用者等からの苦情について適切な解決を図った。
(対応件数1件)

(6) 福祉バスの運行

団体会員として登録している市内の各種福祉関係団体・サロン等が、研修・ボランティア活動等を行う際、円滑な活動ができるよう、マイクロバスの運行を行った。

運行件数：171件

(7) 実習生の受け入れ

種 別	人数	実習期間	学校・事業所
看護学科学生 老年看護基礎実習	26名	1日	佐賀県立医療センター好生館看護学院
社会福祉士	4名	23～24日	西九州大学、日本総合研究所、九州医療専門学校
介護福祉士	18名	5日	西九州大学短期大学部

(参考) R3 実績

種 別	人数	実習期間	学校・事業所
社会福祉士 介護実習	4名	各5日	西九州大学短期大学部
看護学科学生 老年看護基礎実習	4名	1日	佐賀県立医療センター好生館
社会福祉士	3名	23～24日	長崎国際大学、西九州大学、久留米大学
介護福祉士	8名	5日	西九州大学短期大学部
老人センター見学実習	26名	1日	佐賀県医療センター好生館看護学院

【評価・課題】

- ・ 社会福祉法に定められた社会福祉法人の目的を達成するために、運営基準に則して適切な運営を行った。事業並びに運営のために必要な財源確保が課題である。

2 地域福祉活動事業 (121,572,732円)

(1) 企画・広報費事業 (4,245,454円)

① 佐賀市社会福祉大会

市内の福祉関係者が一堂に会し、今後の福祉活動推進の意識を高めるとともに、社会福祉に功労のあった者を表彰し、社会福祉事業の振興発展を目的に開催した。

期日：令和5年2月17日 場所：佐賀市文化会館中ホール 参加者：約230名

② 社協だより“愛・あい”の発行

社会福祉協議会の事業を広く市民に知らせ、また理解と協力を求めるため、年4回(春・夏・秋・新春号)市内全世帯及び事業所に配布した。

③ ホームページの運用

佐賀市社会福祉協議会の事業・活動を広く市民に知らせ、また理解と協力を求めるため作成・公開した。

(2) 地域福祉活動計画推進策定事業 (49,112円)

策定推進委員会(第2回)を開催し、第4期地域福祉活動計画(令和3年～令和7年)の進捗状況を報告。また、重点事業となる「重層的支援体制整備」の現状を報告し、今後の地域福祉活動計画を推進していく中で、委員より意見をいただき協議を行った。

(3) ボランティアセンター事業 (1,903,190円)

市民のボランティアに対する意識高揚と参加を促進するため、佐賀市ボランティア連絡協議会主催の研修及び交流会を計画・実施した。加えて、佐賀市ボランティア連絡協議会(登録8団体)の充実を図るため、年5回(4月・6月・8月・10月・3月)の役員会を実施し、それぞれの団体に所属しているボランティア団体等に対して情報共有を図った。

研修内容：「佐賀市で想定される災害について」 参加者数：51名

① ボランティアセンター運営事業

・ボランティアコーディネート機能の強化

市民からのボランティア活動に関する様々な相談に応じるとともに、ボランティア活動の活性化とニーズの把握、調整に努めた。

- 各ボランティア連絡（推進）協議会及びボランティア団体等との連携
各ボランティア連絡（推進）協議会やボランティア団体が開催する事業・定例会等への協力・連携を図った。ボランティア連絡協議会の事務局を担い、ボランティア団体相互の交流を目的として、研修交流会の開催を支援した。
- ボランティア活動保険の活用促進
登録団体のボランティアが安心して活動に取り組めるよう、ボランティア活動中の事故に備えてボランティア活動保険に関する情報提供を行うとともに、保険加入や事故受付事務を行った。
加入受付：158団体、3,027名 事故申請：5件

② ボランティア団体等助成事業

- ボランティア活動（団体、連絡協議会等）の助成
佐賀市を拠点に社会福祉事業を行っているボランティア団体等に対して、活動に要する経費の一部を助成した。
ボランティア団体：35団体

	件数	助成金額計（円）
本所	17	340,000
諸富	6	120,000
大和	1	20,000
富士	5	100,000
三瀬	2	40,000
川副	2	40,000
東与賀	1	20,000
久保田	1	20,000
合計	35	700,000

ボランティア連絡[推進]協議会：7団体（350,000円）

③ 福祉体験学習指導派遣事業

- 福祉体験学習指導者派遣事業
地域、企業、学校等で開催される福祉総合学習（車椅子介助、アイマスク体験、高齢者疑似体験等）に指導者（クローバーの会）を派遣し、福祉教育の推進を図った。

種別	講座数（回）	派遣先（合計 20件）		
アイマスク	48	【小学校】		
高齢者疑似体験	51	・勸興	・日新	・嘉瀬
車椅子体験	45	・高木瀬	・北川副	・本庄
合計	144	・鍋島	・久保泉	・新栄
		・開成	・諸富南	・春日
		・春日北	・川上	・中川副
		・東与賀		
			【中学校】	【企業・地域団体】
			・致遠館	・NPO法人セルフ
			・成章	※ボランティア団体
			・城南	

④ 災害ボランティアセンター事業

発災時、市民から復旧・復興活動が求められた場合に備え、速やかに活動の拠点となる災害ボランティアセンターを立ち上げ、被災者へのボランティア支援を行えるよう関係機関との連携を図った。
※令和4年度からは、内閣府が進める三者連携体（行政・NPO・ボランティア）の構築に向け、佐賀市協働推進課、佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）との会議を月1回程度開催した。

(4) 高齢者ふれあいサロン事業（22,810,157円）※佐賀市委託

高齢者が住み慣れた地域や家庭で安心して暮らせるように、地域住民の協力により地域の様々な施設（地区公民館、集会所等）を利用し、高齢者や地域住民が気軽に集い、お互いに交流を深め、生きがいづくりや健康づくりを推進し、高齢者が閉じこもりや寝たきりにならないよう、自立生活の助長を図ることを目的に実施されるサロンに対し運営費の助成、また、併せてサロン設立や運営の支援等を行った。

令和4年度においては、新型コロナウイルス感染拡大に留意しながら実施するサロンが増加し、開催及び参加者数は増加している。

令和4年度 新規1ヶ所 廃止7ヶ所 (令和3年度 新規1ヶ所 廃止9ヶ所)

地区名	サロン数	開催数	参加者数	助成額(円)
勸興	3	28	520	230,000
循誘	13	133	2,124	968,736
日新	7	63	1,141	520,000
赤松	3	42	625	220,000
神野	12	119	2,391	921,304
西与賀	11	130	2,106	829,150
嘉瀬	5	46	566	300,000
巨勢	5	55	855	395,020
兵庫	12	124	1,689	860,000
高木瀬	9	120	3,114	780,000
北川副	11	180	2,665	850,000
本庄	8	106	1,890	660,000
鍋島	5	127	1,600	360,000
金立	6	163	1,962	450,000
久保泉	2	16	372	160,000
蓮池	4	42	610	300,000
新栄	10	396	7,850	870,000
若楠	3	17	212	150,000
開成	7	485	4,164	532,670
諸富	14	223	4,168	1,155,034
春日	4	66	808	308,022
春日北	2	22	396	150,000
川上	13	456	6,073	1,058,286
松梅	2	11	212	140,000
富士	6	67	1,104	440,000
三瀬	6	63	787	420,000
南川副	10	113	1,491	720,000
西川副	5	91	1,043	400,000
中川副	5	63	764	350,000
大詫間	4	45	780	300,000
東与賀	4	35	596	310,000
久保田	10	181	2,331	770,000
合計	221	3,828	57,009	16,878,222
令和3年度実績	230	3,275	47,764	17,298,020

(5) 地域子育て支援センター事業 (13,309,000円)

子育て中の親子が気軽に集うことができる広場を身近な地域に設置し、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちの支援を行った。

① 子育て親子への交流の場の提供と交流の促進

・交流の場の提供

子育て親子が自由に利用できる交流の場を設置した。

広場名	開館日数	乳幼児数 (延人数)	保護者数 (延人数)	ボランティア数 (延人数)	実利用者数	
					乳幼児	保護者
大和ふれあい広場 (拠点)	241	3,366	2,840	11	256	228
富士ふれあい広場 (出張広場)	91	342	312	4	37	33
東与賀ふれあい広場 (出張広場)	94	510	436	33	64	53

・交流の促進

地域のボランティアグループの協力により、「子育てサロン」を実施し、子育て親子や地域の方との世代間交流を図った。

ひろば名	実施回数	乳幼児数 (延人数)	保護者数 (延人数)	ボランティア数 (延人数)
大和ふれあい広場（拠点）	29	225	198	18
富士ふれあい広場（出張広場）	24	105	96	9
東与賀ふれあい広場（出張広場）	21	186	159	10

② 子育て等に関する相談、援助の実施

子育てについて不安を抱えている親の相談に応じるとともに、定期的に専門家による「乳幼児育児・発育相談」や子育てに役立つ講座を実施することにより、子育て不安の解消を図った。

（単位：件）

	相談内容別					形態別			合計
	育児	就園	親の問題	家族	地域	来所	電話	グループ相談	
大和	104	31	5	3	38	119	2	60	181
富士	8	0	2	1	5	16	0	0	16
東与賀	24	4	0	1	0	29	0	0	29

③ 地域の子育て関連情報の提供

子育てに関する情報や支援センターのイベント等を紹介する情報紙スマイルファミリー（発行月 4月、6月、8月、10月、12月、2月）を発行し、各校区公民館、児童センター、行政、市立図書館等に情報提供を行った。併せて市報等にも各広場で実施しているサロンや行事等の情報提供を行った。

④ 子育て及び子育て支援に関する講習等（3回）

子育て中の保護者を対象に、子どもの足を守るための足育講座、歯科講座を実施した。

開催日	講座内容	募集組数	乳幼児数	保護者数
令和4年7月11日	歯科講座～歯並びと離乳食～	8組	8	7
令和4年8月10日	こどもの足を守る靴の選び方講座	12組	12	11
令和5年1月23日	歯科講座～仕上げ磨き～	8組	7	6

⑤ サークル支援の実施（31回）

地域にある施設等に出向き地域の子育てサークルの活動を支援する。

⑥ 地域支援の一環として、出張サロンをおこなった。

開催場所（内容）	実施回数	乳幼児数 (延人数)	保護者数 (延人数)
三瀬（親子ふれあい遊びと製作）	3	11	11
久保田（親子ふれあい遊びと製作）	2	5	5
西川副（親子ふれあい遊びと製作）	2	6	6

(6) 多機関協働事業（重層的支援体制整備）（23,351,764円）※佐賀市委託

福祉まるごと相談窓口（佐賀市役所1階14番）に専任の相談支援包括化推進員を2名配置し、各分野（高齢・障がい・子ども・生活困窮など）の単独の相談支援機関では対応が困難な複雑化・複合化した課題を抱える世帯（人）の相談に応じるとともに、分野を超えた相談支援機関等のネットワークを構築し、関係機関と連携した支援につなげた。

◆相談件数

	延べ相談件数	新規相談
R4年度	963件	559人
R3年度	812件	546人

◆相談者（新規相談 559 件中） （単位：件）

本人・親族	261
地域（民生児童委員、自治会、近隣住民など）	20
関係機関（市社会福祉協議会（CSW・貸付・成年後見中核機関）、市自立生活支援センター、家計見直し相談室、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、就労支援事業所、スクールソーシャルワーカー、ひとり親支援団体、県女性相談センター、地域若者サポートステーション、ハローワーク、医療機関、中部保健福祉事務所、法テラス、警察、居住支援法人、公営住宅管理団体、不動産会社など）	62
佐賀市役所内（建設部、環境部、市民生活部、保健福祉部、子育て支援部など）	216

◆調整先機関（解決・改善 719 件中） （単位：件）

本人・親族	130
地域（民生児童委員、自治会、近隣住民など）	12
関係機関（市社会福祉協議会（CSW・貸付・成年後見中核機関）、市自立生活支援センター、家計見直し相談室、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、県精神保健福祉センター、えびすワーク、スクールソーシャルワーカー、ひとり親支援団体、県女性相談センター、地域若者サポートステーション、県ひきこもり支援センター、ハローワーク、医療機関、中部保健福祉事務所、法テラス、警察、県社会福祉士会、居住支援法人、公営住宅管理団体、不動産会社など）	288
佐賀市役所内（環境部、市民生活部、保健福祉部、子育て支援部など）	289

支援会議	4回 （実2ケース）
重層的支援会議（プラン会議）	1回 （実1ケース）
重層的支援会議（モニタリング会議）	3回 （実1ケース）
情報共有会議	13回 （実8ケース） ※うち主催11回

(7) アウトリーチ等を通じた継続支援事業（重層的支援体制整備）（35,230,372円）※佐賀市委託
市内32校区を北部エリア、中部エリア、南部エリアの3つに分け、各エリアのリーダーを中心に3人の担当職員（CSW）によるアウトリーチと伴走型により個別支援を実施。エリア内では常に情報を共有に努め、地域での会議や行事などに積極的に参画していった。また、積極的に各専門機関等と情報共有を図り、地域住民とも協力しながら地域課題の早期発見や解決に努めた。

< 個別支援 >

◆支援件数

	延べ支援件数	新規相談
R4年度	3,631件	110人
R3年度	2,662件	78人

◆相談内容 （単位：件）

内容	件数	内容	件数
病気・けが	224	家族関係・家族の問題	379
障がい（疑い含む）	292	子育て・不登校	3
住まい	500	DV・虐待	6
経済的困窮・債務	1,109	各種手続き	178
家計管理	233	近所とのトラブル	21
就労	333	その他	36
社会的孤立	317		

◆連携機関

地域	自治会長、民生委員、知人、近隣住民 等
関係機関	佐賀市役所、地域包括支援センター、高齢者関係事務所、佐賀市生活自立支援センター、佐賀中部保健所、医療機関、成年後見人、警察、障がい者関係事業所、フードバンク、住居支援事業所、ハローワーク 等

<地域支援>

◆延べ支援件数 2, 9 5 6 件

◆新たな仕組みづくり支援

地域が自らの校区（地区）に新しいしくみづくりを進める際に、地域担当（CSW）として支援した。

福祉協力員設置	1 6 町区	中川副
高齢者サロン開設	1 件	金立
コミュニティカフェ開設	4 件	北川副

(8) 参加支援事業（重層的支援体制整備）(7, 443, 210 円) ※佐賀市委託（新規）

従来の地域力強化推進事業の拡充のため、交流の場づくりから就労・居住支援など、対象者のニーズや課題を把握し、支援計画を基に地域の社会資源を活用しながら継続的な支援を展開した。また、制度にないサービスが必要であれば、地域の特性を生かした新たな社会資源を地域住民と協働しながら創りだしていくなど、その人らしい生活を目指し、伴走型支援を行っていくことに努めた。

◆支援件数

	延べ支援件数	うち新規相談
R 4 年度	9 7 件	6 人

◆連携機関

地域	自治会長、民生委員、知人、近隣住民 等
関係機関	佐賀市役所、地域包括支援センター、高齢者関係事務所、佐賀市生活自立支援センター、佐賀中部保健所、医療機関、成年後見人、警察、障がい者関係事業所、フードバンク、住居支援事業所、ハローワーク 等

(9) 地域福祉活動推進事業（13, 230, 473 円）

① 各福祉団体助成

佐賀市における福祉活動の振興を図るため、社会福祉事業を目的とする福祉団体等の事業及び運営に要する経費に対して助成金を交付した。

◆運営費助成(8 団体) …佐賀市遺族連合会、佐賀市原爆被害者の会、佐賀市視覚障害者福祉協会、佐賀市肢体不自由児・者父母の会、佐賀市身体障害者福祉協会連合会、佐賀市母子寡婦福祉連合会、佐賀市老人クラブ連合会、佐賀市校区（地区）社会福祉協議会会長会

◆事業助成

佐賀市自治会協議会研修費（佐賀市自治会協議会）
佐賀心理リハビリテーション訓練会（佐賀若楠ふたばの会）

② 民生委員・児童委員活動・研修支援事業

毎月の市民児協役員会及び会長会、地区民児協定例会に参加し、住民の福祉にかかわる地域福祉活動の推進を行っている民生委員児童委員の活動に対し支援・協力を行った。

③ 校区（地区）社協役員研修会

研修日：令和 5 年 1 月 2 6 ～ 2 7 日

研修場所：唐津市社会福祉協議会、唐津市鏡山校区社会福祉協議会

参加人員：3 1 名

- ④ 校区（地区）社協運営助成
 助成額 7,250,000 円（250,000×29 校区社協）
 ◆校区（地区）社会福祉協議会役員会・会長会の開催
 校区（地区）社会福祉協議会相互の連携や調整を図るなど、校区（地区）社協の活動推進及び支援を行った。
 ◆役員会（5回）会長会（5回）

- ⑤ 「助け合い・支え合い」の地域づくり推進事業（2,400,000 円）
 「自分たちの地域の福祉課題は、まず自分たち自身で取り組もう。」という住民意識をもとに、小地域福祉活動を担う基礎組織として設置されている市内 29 の校区（地区）社会福祉協議会に対し協働で地域づくりに対しての支援と協力を行った。

- ⑥ 福祉協力員等設置推進支援事業

- ・福祉協力員等設置推進支援事業
 地域の実状に応じた福祉協力員の設置に向けた取り組みについて支援を行った。

	R2 年度	R3 年度	R4 年度
福祉協力員数	2,206 名	2,278 名	2,542 名
地区数	22 校区	23 校区	24 校区

- ⑦ 小災害罹災世帯に対する見舞

- ・小災害罹災世帯に対する見舞
 災害により罹災者が物的・精神的な援護が必要な状況において、自力更生の一時的な援助を図るため見舞金及び見舞品を支給した。

	発生件数	罹災世帯数	罹災人数	見舞金（円）
火 災	5 件	5 世帯	15 人	220,000

- ⑧ コロナ禍で行われる地域に密着した多様な生活支援活動

- ・食生活支援事業
 「コロナ禍に行われる生活支援活動を応援したい」という企業からの寄付を財源として、佐賀県共同募金会が募集され、本会では経済的に困窮する世帯の児童・生徒に対し、軽食等の食料（食事）を提供した

【評価・課題】

市内を 3 つのエリアに分け、チーム制で地域担当職員（CSW）を配置し、アウトリーチを中心に個別支援及び地域支援を行った。さらに、社協の活動実績や事例等の報告（かわら版）をするなど可視化にも努めた。

市内 32 校区の中で、校区（地区）社協の未設立校区が 3 校区あるため、引き続き市内全域への設立に向けて準備していきたい。

3 共同募金配分金事業（17,107,816 円）

- (1)（歳末配分）共同募金配分金事業歳末助け合い配分事業（6,563,102 円）
 前年度、運動期間中（12月1日から1ヶ月間）に集まった募金を共同募金会佐賀市支会に設置した配分委員会に諮り、住民ニーズに応じた事業を展開した。

- ① 年末・年始地域福祉事業

各校区社会福祉協議会等が自らの福祉課題に応じて行う年末・年始の事業に対し、助成を行うことで、地域での特性を活かした住民同士の交流を深めることができた。

地区名	事業内容	助成額(円)
勸 興	一人暮らし高齢者へ年賀状、地域福祉交流祭（勸興まちの駅）、ふれあい親子しめ縄づくり、ふれあいの集い、ほんげんきょう	154,000
循 誘	もうすぐ正月祭	213,000
日 新	日新ライトファンタジー、しめ縄・ミニ門松作り	287,000

赤松	一人暮らし高齢者年賀状作成・配布、高齢者へ餅つき・赤飯配布、おぼろ灯笼・鯨の門まつり	308,000
神野	ふれあいサロンスタッフ研修会、一人暮らし高齢者交流会、ひとり暮らし高齢者クリスマスプレゼント、男性健康維持研修会	463,000
西与賀	一人暮らし高齢者へしめ縄づくり小学生と配布、一人暮らし高齢者交流会、防災訓練	181,796
嘉瀬	しめ縄づくり指導者講習会、一人暮らし高齢者へしめ縄配布、高齢者世帯年賀状作成配布、異世代交流会（餅つき）	155,000
巨勢	グランドゴルフ大会、ミニ門松づくり	85,000
兵庫	友愛年賀状配布、一人暮らし高齢者クリスマスプレゼント、兵庫放課後児童クラブとの交流会	180,000
高木瀬	高齢者へクリスマスプレゼント、三世代交流事業（クリスマス会・しめ縄作り）、こんにちは赤ちゃん訪問、友愛活動（誕生カード・プレゼント届）	442,776
北川副	共に支え合う地域福祉の研修会、児童と高齢者のしめ縄づくり、友愛年賀状事業、健康マージャン教室・大会	314,000
本庄	一人暮らし高齢者へ年賀状、本庄イルミネーション	252,000
鍋島	鍋中1年生支援による独居高齢者への年賀状配布、鍋島小親子交流会、住民交流（ボッチャ大会・グランドゴルフ大会）、イルミネーション設置	260,000
金立	一人暮らし高齢者ふれあいの集い	120,000
久保泉	ほんげんきょう	68,000
蓮池	親子ふれあい子ども冬まつり	59,000
新栄	ふれあいグランドゴルフ大会、年末福祉交流餅つき大会、ほんげんきょう、クリスマスイルミネーション	244,000
若楠	ほんげんきょう、校区新年交流会、年末独居高齢者訪問・こどもクリスマス会、高齢者出前講座・高齢者世帯新年ふれあい交流会	270,000
開成	一人暮らし高齢者年末訪問交流事業、三世代交流事業	200,000
諸富	いきいきはつらつ交流会、餅つき・鏡餅配布事業	277,000
春日	高齢者訪問安否確認事業	184,000
春日北	高齢者訪問安否確認事業	229,000
川上	高齢者世帯等ふれあい会食会	150,000
松梅	高齢者訪問安否確認事業、松梅中学部激励会	44,000
富士	高齢者世帯安否確認及び餅配布、富士中との菓研お屠蘇作り	120,000
三瀬	世代間交流事業（メッセージカード作成・お屠蘇作り）	39,000
南川副	小学生と高齢者とのふれあい交流会	146,000
西川副	小学生と高齢者の交流事業（稲刈り体験）、独居高齢者へのカレンダー作成・配布	139,000
中川副	ふれあい親子クラフト活動（一人暮らし高齢者へ配布）	82,000
大詫間	ふれあい餅つき交流会	37,000
東与賀	高齢者ふれあい交流会食会、餅つき会、しめ縄作り教室	242,000
久保田	絵手紙カレンダー作成、世代間交流事業（しめ縄づくり・思斉の郷まつり）	372,710
	歳末助け合い配分事業事務費	244,820
合計		6,563,102

(2) 共同募金配分金事業（10,544,714円）

佐賀県共同募金会の配分委員会の議決に基づく佐賀市社会福祉協議会への配分金事業として地域福祉推進事業や地域テーマ事業の福祉のまちづくり支援事業を行った。

（前年度繰越再配分700,000円含む）

[全事業]

事業名	事業額(円)	配分金充当額(円)
①校区(地区)社会福祉協議会運営費助成	4,368,196	4,350,000
②在宅高齢者等会食会・訪問交流事業	1,004,040	988,587
③自治公民館備品整備助成事業	1,739,581	1,715,000
④福祉のまちづくり支援助成事業	1,668,940	1,663,000
⑤地域応援研修会	26,030	26,030
⑥社協だより発行	750,000	750,000
⑦新たな居場所づくり(コミュニティカフェ)	211,980	211,980
⑧生活困難者支援事業	164,407	164,407
⑨児童遊園地整備助成事業	611,540	605,600
合計	10,544,714	10,474,604

※事業額と配分金充当額の差額は法人運営事業から繰り入れ

② 在宅高齢者等会食会・訪問交流事業

地域の高齢者が公民館等で会食の機会を通して、地域の見守りのための「気づき・実践の場」となることを目的に、地区社協、地区民協等が行う会食会・訪問交流に対し助成を行った。

地区名	実施団体	開催数		参加者数		助成額(円)
		訪問	会食会	訪問交流	会食会 (内ボランティア)	
勸興	勸興校区社協	-	2	-	153 (32)	45,900
循誘	循誘校区社協	-	4	-	408 (137)	122,400
日新	日新校区社協	-	2	-	150 (69)	45,000
赤松	赤松校区社協	1	-	496	-	74,400
巨勢	ボランティア巨勢	-	6	-	157 (73)	47,100
	巨勢地区民児協	1	-	148	-	22,200
兵庫	兵庫校区社協	-	1	-	47 (19)	14,100
高木瀬	ボランティア高木瀬	-	1	-	92 (20)	27,600
北川副	ボランティア北川副	-	12	-	517 (140)	155,100
	北川副校区社協	1	-	262	-	39,300
鍋島	ボランティア鍋島	2	-	532	-	79,800
蓮池	蓮池校区社協	-	2	-	49 (24)	14,700
新栄	新栄ボランティア	2	-	408	-	61,200
若楠	若楠校区社協	-	1	-	71 (13)	21,300
開成	開成ボランティアひまわり	2	-	645	-	96,750

南川副	南川副校区社協	-	1	-	32 (16)	9,600
西川副	西川副校区社協	-	1	-	42 (21)	12,600
大詫間	大詫間校区社協	-	1	-	29 (12)	8,700
東与賀	東与賀校区社協	1	-	350	-	52,500
久保田	久保田校区社協	-	1	-	76 (38)	22,800
合計		10	35	2,841	1,823 (614)	973,050

※今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により会食会の開催を中止された地域もあったが、その代替えとして訪問交流活動に変更して地域住民の見守りに繋がる活動を実施された。

③ 自治公民館備品整備助成事業

校 区	申請団体	整備備品	事業総額(円)	配分額(円)
勸 興	東大島区自治会	エアコン	400,000	50,000
赤 松	鬼丸町自治会	エアコン	123,000	50,000
西与賀	県営光団地自治会	テレビ	98,715	50,000
巨 勢	構口自治会	ホワイドボード	55,000	44,000
	修理田自治会	IH コンロ	14,651	11,000
兵 庫	北修理田自治会	エアコン	169,400	50,000
	藤木自治会	テーブル	255,000	50,000
高木瀬	川原屋敷自治会	手すり	77,000	50,000
	辻自治会	エアコン	341,000	50,000
北川副	南佐賀自治会	テーブル	217,800	50,000
	安住団地自治会	温水便座	59,400	47,000
	江上町自治会	テレビ	112,686	50,000
本 庄	鹿子上自治会	椅子	102,300	50,000
鍋 島	医大東自治会	椅子	10,945	8,000
金 立	西権自治会	カーテン	66,616	50,000
	友貞自治会	掃除機	43,780	35,000
久保泉	西原ニ自治会	テーブル・椅子	237,182	50,000
	宮分自治会	洗浄便座	127,732	50,000
	下和泉2自治会	マイクセット	69,960	50,000
開 成	江頭自治会	冷蔵庫	62,800	50,000
春 日	駄市川原自治会	エアコン	199,100	50,000
	福島自治会	椅子	190,000	50,000
	南小路自治会	ホワイドボード	71,500	50,000
春日北	花久保自治会	エアコン	154,000	50,000
	北原一区自治会	テーブル・椅子	95,348	50,000
川 上	下戸田自治会	温水洗浄便座	54,120	43,000
	山王自治会	パイプ椅子	49,830	39,000
富 士	柚木自治会	エアコン	147,400	50,000
	菖蒲自治会	座椅子	39,950	31,000
	下無津呂自治会	温水洗浄便座	72,160	50,000
三 瀬	第13区自治会	テーブル	99,900	50,000
南川副	南19区南自治会	エアコン	204,380	50,000
	南25区自治会	掃除機	75,350	50,000
西川副	西古賀自治会	マイク・コンロ	49,720	39,000
	野々古賀自治会	座椅子	30,580	24,000

久保田	草木田自治会	エアコン	539,000	50,000
	町東自治会	座椅子	58,300	46,000
	徳久自治会	掃除機・椅子	60,800	48,000
配分事務費				24,581
合 計			4,836,405	1,739,581

④ 福祉のまちづくり支援事業助成

申請団体	事業名	事業総額(円)	配分額(円)
兵庫校区社会福祉協議会	地域福祉推進拡充事業	250,000	200,000
北川副校区社会福祉協議会	地域福祉推進拡充事業	170,000	136,000
金立校区社会福祉協議会	安心・安全なまちづくり支援事業	412,500	240,000
蓮池校区社会福祉協議会	安心・安全なまちづくり支援事業	154,495	123,000
開成校区社会福祉協議会	安心・安全なまちづくり支援事業	168,300	134,000
諸富地区社会福祉協議会	地域福祉推進拡充事業	333,311	240,000
川上校区社会福祉協議会	安心・安全なまちづくり支援事業	135,100	108,000
松梅校区自治会長会	安心・安全なまちづくり支援事業	300,960	240,000
富士地区社会福祉協議会	安心・安全なまちづくり支援事業	111,870	89,000
久保田校区社会福祉協議会	安心・安全なまちづくり支援事業	191,730	153,000
合 計		2,228,266	1,663,000

⑤ 地域応援研修会

「地域共生社会の実現」に向けて、地域では顔の見える関係づくりや人と人とのつながりを強化するなど、さまざまな活動の取り組みが行われており、市社協とパートナーの関係である校区（地区）社会福祉協議会を中心とした地域福祉活動を推進し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域づくりを目指し、更なる校区（地区）社会福祉協議会の発展と今後の地域福祉活動の充実を図ることを目的に研修会を開催した。

期 日 令和5年3月20日（月）

参加者 84名

内 容 「知ってほしい！市社協への寄附金等の活用について」
～市社協・校区（地区）社協が目指す地域福祉～

⑥ 社協だより発行（再掲）

⑦ 新たな居場所づくり事業（コミュニティカフェ）

地域の繋がりを再構築していくために、誰もが集える居場所づくり（コミュニティカフェ）の推進を図った。

	R2年度	R3年度	R4年度
カフェ設置数	28カ所 (14校区)	30カ所 (14校区)	34カ所 (14校区)
(うち新規)	4カ所	2カ所	4カ所

⑧ 生活困窮者支援事業

緊急的または一時的に食料等の確保できなくなった人（世帯）に対して、いのちを守ることを最優先に食料品やベビー用品、さらに生活用品等を支給した。また、必要に応じフードバンク、生活困窮自立支援センター、市生活福祉課、地域包括支援センター等とも連携しながら支援を行った。

	令和4年度	令和3年度
食料等支援件数	70世帯	78世帯
支援人数	29名	50名
支援人数（延べ）	137人分	143人分

⑨ 児童遊園地整備助成

市内地区自治会が児童福祉対策として、児童遊園地の新設、増設及び補修を行った場合、市とともに助成金を交付した。

校 区	設置数(件)	助成額(円)	校 区	設置数(件)	助成額(円)
嘉 瀬	1	97,600	南川副	1	100,000
本 庄	2	136,400	東与賀	2	70,800
鍋 島	1	60,000	久保田	1	80,800
諸 富	1	60,000	合 計	9	605,600

【評価・課題】

共同募金並びに歳末たすけあい募金配分金が、地域福祉推進団体（校区社協、民生委員・児童委員協議会、自治会、ボランティア団体等）の活動財源として活用され、地域福祉の推進につながった。今後も、地域福祉推進団体と協議連携しながら、貴重な地域福祉推進の財源である配分金の有効活用を図って行く。

4 福祉サービス利用支援事業（29,668,641円）

① 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）（12,116,738円）

「福祉サービス利用者の利益の保護」を図ることを目的に、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方が安心して自立した地域生活を送れるよう、福祉サービスの利用援助等を行い支援した。

◆相談、新規契約・解約件数（令和5年3月末現在）（単位：件）

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
令和4年度 相談・問合せ	1,608	1,687	1,804	80	5,179
令和3年度	2,006	1,278	2,207	2	5,493
令和4年度 新規契約	1	2	3	0	6
令和3年度	13	3	4	0	20
令和4年度 解約	16	7	4	0	27
令和3年度	13	4	3	0	20

◆契約者数（令和5年3月末現在）（単位：人）

支所名	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	相談実績 (件/年)	延支援件数 (件/年)
本所	23	38	28	1	90	4,996	1,790
北連絡所	2	0	0	0	2	24	26
南連絡所	5	2	5	0	12	159	285
合計	30	40	33	1	104	5,179	2,101
令和3年度末	46	47	32	1	126	5,439	2,283

② 法人後見事業（5,119,903円）

法人（成年）後見人等として、身上監護や財産管理などの生活全般を継続的かつ長期的に支援し、被後見人等の権利擁護並びに意思決定支援を重視し、関係機関と連携・調整を行いながら後見業務を実施した。

◆受任件数（令和5年3月末現在）

	受任件数	類型内訳 (市長申立)			新規	終了
		後見	保佐	補助		
令和4年度	29件	15件 (12件)	13件 (2件)	1件 (0件)	8件	4件
令和3年度	25件	15件 (13件)	9件 (3件)	1件 (0件)	5件	4件

◆福祉サービス利用援助事業から法人後見事業への移行ケース数

令和4年度	8件
令和3年度	4件

◆支援件数・支援内容

	後見	保佐	補助
支援件数	183件	152件	13件
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的または突発的な対処のための訪問 ・日常生活に係る料金、利用料の支払い ・各福祉サービスの利用契約手続き ・年金、金融機関等の手続き ・福祉・医療機関との調整会議 ・後見等終了後の親族、関係者への引継ぎ <ul style="list-style-type: none"> ・施設、病院等の利用契約 ・相続関係手続き ・生活保護の申請手続き ・法的な手続き等 		

- ③ 佐賀市成年後見制度利用支援事業（佐賀市成年後見センター）（12,221,000円）※佐賀市委託（新規）
成年後見制度の利用促進のため、佐賀市から委託を受け、相談支援、広報・啓発活動などを行い、併せて定期的に運営委員会を開催し成年後見制度の利用促進に向け協議を継続していった。

◆相談者内訳

相談者内訳	件数	相談内容	件数
本人	20	本会の法人後見事業に関する利用方法に関すること	11
同居家族	8	成年後見制度の一般的な内容のこと	65
別居家族	54	申立てや受任に関すること	80
民生委員	1	任意後見に関すること	10
地域包括支援センター	17	財産管理に関すること	9
行政	20	相続・遺言に関すること	1
施設	15	不動産処分に関すること	2
病院	33	市民後見人に関すること	1
介護保険事業所	13	成年後見制度等に関する研修会・勉強会に関すること	9
障がい者サービス支援事業所	9	親族後見に関すること	2
その他	18	その他	18
合計	208件	合計	208件

地域における権利擁護に関する研修会の開催

研修内訳	回数	参加人数
民生委員児童委員協議会定例会、校区社会福祉協議会研修会、老人センター教養講座、ボランティア団体研修、地域包括ケア会議、特別支援学校親の会、関係機関職員研修等	12回	835人

◆成年後見制度に関するアンケートの実施

「地域における権利擁護に関する研修会」開催時にアンケートを実施し、成年後見制度に対するイメージや制度の理解などを調査した。

回答数 122名

◆佐賀市成年後見センター運営委員会の開催（計5回）

佐賀市成年後見センターでの公正中立な運営及び、司法・医療・福祉を含めた地域連携ネットワークの構築を図るため、運営委員会を年5回開催した。

運営委員会 メンバー	弁護士、司法書士、社会福祉士、公証役場、地域包括支援センター、 障がい者支援センター (オブザーバー) 佐賀家庭裁判所、佐賀県
---------------	---

開催数	協議内容
第1回運営委員会	①相談受付～受任推薦会議開催までのフローチャート・様式について ②成年後見制度の申立て支援を専門職へ繋ぐ時の手順について
第2回運営委員会	①成年後見制度利用が適切と判断した方の申立代行支援について ②受任推薦会議の具体的な開催方法について
第3回運営委員会	①受任者推薦会議の開催方法について ②佐賀市における地域連携ネットワークについて
第4回運営委員会	①佐賀市における地域連携ネットワークについて ②受任者推薦会議の開催方法について
第5回運営委員会	①令和5年度事業計画（案）について ②受任者推薦会議について

◆受任者推薦会議の開催

市長申立事案について、対象者の意思を尊重するため面接を実施。その後、状況に適した後見人等候補者または職種の検討及び調整のため会議を行った。

開催数	ケース数	内訳
8回	18件	認知症高齢者：18件 知的障がい：0件 精神障がい：0件

【評価・課題】

福祉サービス利用援助事業や法人後見事業の実施により、利用者の生活の安定や権利擁護につながった。事業に対するニーズは年々増加しており、引き続き、事業の拡充を図る。

④ 移送サービス事業（211,000円）

既存の交通機関による移動が困難な車椅子利用の高齢者や身体障がい者を対象に、ボランティアの協力のもと、車椅子搬送仕様自動車を利用した移送サービスを提供した。（利用対象地域：三瀬村、富士町、大和町松梅地区）

利用登録者：7名 利用回数：延51回 運転ボランティア：7名

※R3 利用登録者：8名 利用回数：延53回 運転ボランティア：9名

⑤ 佐賀市東与賀保健福祉センター管理事業

センター管理、会議室等の貸し出しや利用状況の把握等の管理業務を行った。

大広間		会議室		市民相談室・ビリヤード室		相談室		調理室	
件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
49	914	77	1,301	—	—	86	995	5	125
集団指導室		機能訓練室		診察室		歯科検査室		計	
件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
160	3,236	74	2,057	24	934	16	914	491	10,476

5 生活福祉資金貸付事業 (18,374,723 円)

① 生活福祉資金事業 (15,383,582 円)

金融機関からの借入れや公的貸付制度の利用が困難な所得の少ない世帯、障がい者や介護を要する高齢者の属する世帯に対し、必要な資金の貸付けと相談援助を行った。また、貸付に結びつかなかった世帯に対して、関係機関へ繋ぐことで切れ目のない支援を行った。

対象世帯・・・低所得者世帯、障がい者世帯、高齢者世帯、失業中の世帯等

資金種類・・・生活福祉資金（総合支援資金、福祉資金、教育支援資金、不動産担保型生活資金）

(単位：件)

	生活福祉資金	臨時特例 つなぎ資金	合計	内訳
相談等件数	218	1	219	総合14件、福祉48件、不動産2件 緊急48件、教育28件、その他78件
令和3年度	93	0	93	総合1件、福祉30件、不動産9件 緊急2件、教育10件、その他41件
貸付件数	9	0	9	福祉2件、不動産1件、緊急5件 教育1件
令和3年度	0	0	0	

※相談件数については一人の相談者から複数回の相談を受けているため延べ数での報告となっている。

※貸付に至らなかったケースについては、今後の生活支援をしていくうえで関係機関等に情報提供し連携を図った・・・佐賀市生活自立支援センター、地域包括支援センター、社協内地域担当（CSW）、佐賀市役所（生活福祉課・こども家庭課）他

生活福祉資金の特例貸付（コロナ特例貸付）

新型コロナウイルスの影響を受け、休業や失業などにより収入が減少、生活に困窮している世帯に対し貸付ける緊急小口資金及び総合支援資金の相談援助を行った。

(令和5年3月31日現在 金額：千円)

	緊急小口資金	総合支援資金	合計
相談等件数 (累計)	—	—	1,148件 (12,003件)
申請件数 (累計)	147件 (1,779件)	130件 (2,292件)	277件 (4,071件)
申請金額 (累計)	28,270千円 (323,990千円)	63,950千円 (1,185,010千円)	92,220千円 (1,509,000千円)

※相談件数については資金種別を特定せずに受け付けているため合計での報告となっている。

※1件の申請に対して2～3回の相談を受けることもあるため、相談件数と申請件数に差異が生じている。

※累計は令和元年度～令和4年度の合計件数・金額。(貸付申請期間：令和2年3月25日～令和4年9月30日)

② 福祉資金貸付事業 (2,991,141 円)

低所得世帯の自立更生のため、他からの資金貸付が困難かつ緊急の場合に3万円を上限として貸し付けを行った。

件数 (件)		金額 (円)
相談等件数	107	
令和3年度	126	
貸付件数	113	2,880,231
令和3年度	99	2,564,257
償還件数	115	2,709,712
令和3年度	117	2,745,978

※1件の相談で複数の貸付を行うこともあるため、相談件数よりも貸付件数が多くなっている。

※貸付と償還の件数差は、1件の貸付に対し、最長6回までの償還回数となる場合があるため償還回数が多くなる

とがある。

【評価・課題】

コロナ禍において収入減少・生活困窮する世帯には、特例貸付の相談や申請受付で生活支援を実施してきたが、個別に課題を抱える対象世帯に対しては、専門機関等へ繋ぐことも含め地域担当職員（CSW）が訪問するなどの支援を行った。また、相談者に対し食料や生活用品の支援を行った。

II. 施設経営事業拠点区分（83,809,776円）

1 老人福祉センター事業（70,244,281円）

高齢者が地域で安心して、心豊かに楽しく過ごせる場所を提供するため、市内5箇所（平松、巨勢、金立、開成、大和）の老人福祉センター等を運営した。各センターでは高齢者大学、クラブ活動や季節の行事などを行い、生きがいの充足、積極的な「仲間づくり」を進めている、また健康相談を実施し、健康で明るい生活を営んでもらうための事業の推進に努めた。

① 平松老人福祉センター事業（いきがい館平松）（19,970,673円）

◆年間の利用者数 (単位：名)

	市内	市外	合計	1日平均
男	19,044	979	20,023	
女	11,538	79	11,617	
合計	30,582	1,058	31,640	108.3

◆佐賀市平松清風大学（開講日：火曜日ただし8月は休み）

長寿社会の中で、高齢者が積極的に学習に取り組むことで、生きがいを見つけ生活をより充実させることや、地域社会の活動に貢献できる人材を育成することを目的として実施した。

学生数 93名（1年生50名 2年生43名）

入学式 令和4年4月12日

卒業証書授与 令和5年3月7日

講義 一般教養、郷土史、健康、園芸、企画学習（グループ討議、自主企画授業）、1・2年生交流授業

講義数 1年生36回、2年生36回

学生活動 「文集ひらまつ」及び「学校新聞せいふう」の発行、運動会

クラブ活動 グラウンドゴルフ、園芸、絵手紙、パソコン、マージャン

② 巨勢老人福祉センター（いきがい館巨勢）事業（18,453,825円）※佐賀市委託

◆年間の利用者数 (単位：名)

	市内	市外	合計	1日平均
男	7,275	117	7,392	
女	8,105	222	8,327	
合計	15,380	339	15,719	53.8

◆巨勢シルバーカレッジ（開講日：原則、第1・第3木曜日ただし8月は休み）

高齢者が福祉社会をより深く認識し、より快適な暮らしを高める能力を身につけるとともに地域社会に貢献できる人材を育成することを目標として開設した。

学生数 48名（1年制）

入学式 令和4年4月14日

講義 一般教養、郷土史、健康づくり等

講義数 20回（21回予定のうち1回は中止）

修了式 令和5年3月16日

③ 開成老人福祉センター（いきがい館開成）事業（15,709,265円）※佐賀市委託

◆年間の利用者数 (単位：名)

	市内	市外	合計	1日平均
男	5,957	0	5,957	
女	3,460	0	3,460	
合計	9,417	0	9,417	32.2

④ 大和老人福祉センター事業（いきがい館大和）事業（16,110,518円）※佐賀市委託

◆年間の利用者数 (単位：名)

	市内	市外	合計	1日平均
男	1,434	207	1,641	
女	2,751	692	3,443	
合計	4,185	899	5,084	17.6

◆大和いきがい文化講座（開講日：原則、第3水曜日）

高齢者に開かれた身近な生涯学習の場として、教養や社会参加する資質を高め、自分らしくいきいきとした生活、地域貢献できる人材の育成を目的に高齢者教養講座を開講した。

学生数 30名（1年制）
 開講式 令和4年4月20日
 講義 ヨガによる健康づくり、郷土史、救急法等
 講義数 16回
 修了式 令和5年3月15日

2 金立いきいの家事業

① 金立いきいの家（いきがい館金立）事業（13,565,495円）※佐賀市委託

◆年間利用者数 (単位：名)

	市内	市外	合計	1日平均
男	2,142	140	2,282	
女	4,228	198	4,426	
合計	6,370	338	6,708	23.1

◆金立いきいの家文化講座（開講日：原則として第4金曜日）

高齢者が高齢社会の一員であることを認識し、講座を受講することにより知識を深め、生きがいを見出し、地域社会に貢献できる高齢者を養成することを目的に開設した。

学生数 45名（1年制）
 開講式 令和4年4月22日
 講義 一般教養、健康づくり、園芸、郷土史等
 講義数 15回（16回予定のうち9月は中止）
 修了式 令和5年3月24日

Ⅲ. 介護保険等事業拠点区分（21,377,271円）

1 通所介護事業

要支援及び要介護認定を受けた高齢者が、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴・食事・レクリエーション・口腔ケア・運動・趣味の活動等を通して個別支援に努めたサービスを提供した。

開成デイサービスセンター事業（21,377,271円）

実施日数（日）	延利用者数（名）	1日平均（名）
255	3,393	13.3

【評価・課題】

介護保険制度改正により、厳しい運営状況が続いている。各種の地域福祉活動を展開するための貴重な自主財源確保に資する取り組みではあるが、事業の継続については検討を要する。

IV. 認可外保育施設運営拠点区分

1 松梅保育所運営事業

① 松梅保育所運営事業（18,251,693円）※佐賀市委託

松梅地区唯一の保育施設として、保育所保育指針に基づき、子どもの発達過程を踏まえた育ちを支援することを柱とした事業を計画し、子どもの穏やかな成長を支えた。

開所日数(日)	利用者(名)					1日平均
	保育児	幼児	小学生	一般	合計	
270	3,061	39	31	98	3,229	12

○保育事業

○地域住民・児童生徒との交流事業

農業体験・校区体育祭・中3激励会・防災活動・ラジオ体操)

【評価・課題】

令和元年10月1日から市委託事業として運営。適切な運営に努めることにより事業の目的は達成できている。施設の老朽化が進み管理の面で徐々に支障が生じ始めているため、改善に向け市と調整中である。

V. その他の事業

1 共同募金・歳末たすけあい募金運動への協力（佐賀県共同募金会佐賀市支会）

日本で唯一法律に基づいて行われる募金活動として、公的な福祉サービスでは支えられない分野の支援を行うため、佐賀県共同募金会佐賀市支会として募金活動を展開し、集まった募金は佐賀県共同募金会に全額送金した。

① 赤い羽根共同募金

「たすけあい つながるやさしさ 赤い羽根」をメインテーマに、10月1日から12月31日までの3ヶ月間、各種団体などの協力を得て実施した。

(単位：円)

種別	戸別募金	法人募金	街頭募金	学校募金	職域(資材)	その他	合計
佐賀市支会	14,378,305	4,222,509	152,768	251,363	2,173,230	326,269	21,504,444
県共募扱	0	0	0	25,502	0	79,488	104,990
合計	14,378,305	4,222,509	152,768	276,865	2,173,230	405,757	21,609,434

※職域(資材)は募金額のみ計上

② 歳末たすけあい募金

「つながり ささえあう みんなの地域づくり」をスローガンに、12月1日から12月31日までの1ヶ月間、各種団体などの協力を得て実施し、集まった募金は佐賀県共同募金会に全額送金した。

(単位：円)

種別	戸別募金	その他	合計
佐賀市支会	5,990,877	203,603	6,194,480
県共募扱	0	1,391	1,391
合計	5,990,877	204,994	6,195,871

2 日本赤十字社事業の推進（日本赤十字社佐賀県支部佐賀市地区）

国際救護活動や災害救護活動等の人道的使命に基づき、国内外で事業を実施している日本赤十字社の佐賀市地区として、赤十字事業の普及と事業推進に必要な資金を確保するため会員募集に努めた。

会費実績；19,404,314円

① 各種講習会

佐賀県支部が開催する各種講習会の開催を積極的に推進するとともに、市内で行われる救急法などの講習に講師又は指導員の派遣調整を行った。

○2022赤十字運動月間「防災セミナー」（コロナ感染症拡大予防のため中止）

○講習への講師(指導員)派遣調整 ※県支部より派遣

救急法：3ヶ所

② 防災・減災活動等への取り組みに対する助成

校区自治会及び自主防災組織等が、防災・減災意識の高揚を目的に実施する防災・減災活動及び研修会、講習会等に対して助成金を交付し、地域における日本赤十字社活動の普及と誰もが安心して暮らせる地域づくりの推進を図った。

助成金交付：1校区

③ 災害義援金の募集・受付

各地で発生した災害などに対し義援金の募集及び受付を行い、集まった義援金は日本赤十字社佐賀県支部を通じて被災地へ送金した。

○平成30年7月豪雨災害義援金 92円

○令和2年7月豪雨災害義援金 36,529円

○令和4年3月福島沖地震災害義援金 1,005円

○令和4年8月大雨災害義援金 18,528円

○ウクライナ人道危機救援金 290,791円

○2023トルコシリア地震災害救援金 131,012円

④ 火事等の罹災世帯への援助

市民で災害により罹災者が物的・精神的な援護を必要とする場合、見舞金や毛布、日用品等の物資を支給することで、自力更生を支援した。

世帯数(人数)	緊急セット	毛布	バスタオル
5世帯(15人)	6	14	14

【評価・課題】

共同募金、赤十字の両事業ともに、佐賀市の事務局を社会福祉協議会が併せ持つて取り組んでいる。両事業ともに、地域福祉の推進と地域の安全安心につながる事業であるため、継続して取り組む必要がある。また、募金の使途明示等に積極的に努め、より一層の理解・協力が得られるよう取り組んでいく必要がある。